

100 さんは、二人の後をつけていきました。
「ほんとかい？」
101 「ほんとだとも。うそと思うなら、あした見に来いよ。そのくりを見せてやるよ。」
102 「へえ、変なこともあるもんだなあ。」
103
104 それなり、二人は、だまって歩いていきました。

100 さんは、二人の後をつけていきました。

二人の後を

さんは ———— つけていきました。

つける

辞 見失わないように、そと追いつく。尾行する。

「あせむ」

見失わないように、あとを追う。

たまたま自分の話題を聞いた。兵十がどう思っているのか知りたくなかった。

二人の話が聞ける距離をたまにながらついでいく。かなり危険な行為だが、それ以上に話が聞きたい。

ただ、さんは、自分の話題が出たからついでにといふよりも、それが兵十だったからついでにたのう。そうしているうちに、たまたまこの話を聞いたのだ。さんとついでに、すでに兵十は、ただの村人ではなく、特別な存在になっているのだから。

その兵十が、自分のことを話題にしているの、いよいよ気になって、ついでにたといふことになるだろう。が、

授業では、そこまで追求しなくてもいいかもしれない。

四のはじめより読んでください。

今日勉強するところを読んで。

文
100

まずわかることは？

・さんは つけていきました。

つけていくというのは？

・つける+いく

「つける」とは、どうするに？

・そと後をつける。

・見つからないようにする。

・尾行すること。

辞書で確かめてみよう。 辞書を引く

「見失わないように」と書いてあるね。見失わない

ようにするといふのは、どうする？

・こっそり隠れながら、相手が見えるように。・・・。

・途中で、見えなくなったりしないようにする。

・このことは、ふつうなら、だれかをつける場合はその人たちが見えるくらいの距離で、相手を見つからないようにしてあるんじゃないのかなあ。

・うん。

用例
作例

あとを付けたが、うまくまかれた

〜につく

既出

遺のき態

ある動作をしてから遠のく

ある動作や状態をしながらいく

むらむらの遠のく移動やはたらきかけ

この場合は、だとするのが妥当だ。

ところが、この場合の「ごんはどつ？」
・二人のすぐ後ろにいる。
どこからわかる？

・二人の話を聞いているんだから、話が聞こえるくらいのところにいる。

そうだね。ただ見失わないだけじゃなくて、話を聞いているんだ。

ごんの姿、ごんの歩き方、どういつ姿がつかんできますか？しせいは？

・足音をたてないように歩いている。

・しせいを低くしている。

・抜き足差し足、忍び足。

この文から、どんな絵がうかんできますか？

・二人がいて、後ろにごんがいて、はなれていつている。

・ごんが二人の後ろを、姿勢を低くしてこっそりいついています。

・二人は、話をしている。

そのときのごんのきもちは何？

・話のなかみを聞きたい

・二人の話が気になる

・自分がしていることを、兵十はどう思っているんだ

ろつと気になっている。

話が聞きたいとか、気になりだしたのはどこからわかる？

・自分がしていることが話に出ているところ。

・とくに「だれだかららんが」のあたりで気になっていると思う。

そうだろうね。自分がしていることを兵十はどう思っているのだろう、だれがやっていると思うっているのだろう、なんて、気になっているんだろうね。

そうやって、月夜の晩に耳を澄ませながら二人の後をこっそりつけていくごんの姿が見えますか？

兵十の話を信じられない加助。兵十自身が、「不思議なこと」といつているのだから、加助が信じられないのも無理はないだろう。

文
101

だれがいつた？

・加助。

この場面のはじめの時間に、それぞれのせりふがだれのものかを確認しておけばいい。そうすれば、この発問は不要になる。

「ほんとかい」といつるのは、どついついつ気持さのとき

101「ほんとかい？」

(それ) () ———— (ほんとかい?)

比較

ほんとかい?

ほんとかい?

ほんとかい?

微妙な「アソブ」の違がある。どつ違つか子どもまたちと一緒と考えられたらいい。加助の人間性、加助と兵十の人間関係の一端が出てくる。きええらわめる。

「言ひの？」

- ・うたがっているとき。
- ・信じられないとき。
- ・うそ、うそ、と思っているとき。
- 何について、ほんとうかいと言っているのでしょうか。
- ・おっかあが死んでからは、だれだかしらんが、おれに、くりやまつたけなんかを、毎日毎日、くれる、よじつじつ。

・おれのしらんうちに置いていくこと。

兵十は、そう言ってるよね。

じゃあ、兵十の言っていることの全部を疑っているの？

・うっん、置いてるといふことは、信じてるかもしれない。

・だれが置いてるかわからないというのが、信じられない。

・だれかわからない人が置いていっているというのが信じられない。

うん、全部を信じてないわけじゃないみたいだ。

それを考えるためにも、加助の言い方について考えてみよう。

比較

ほんとかい？

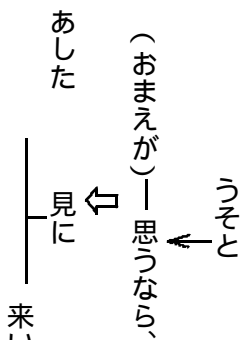
ほんとか？

ほんと？

- ・は、何だか、全部信じてない感じがする。
- ・は、ちょっときつい言い方みたい。
- ・は、叱られているような感じがする。
- ・は、優しくいつてるような感じ。
- そつだね。みんなは、ふつう、のような言い方はしないよね。でも、この言い方は、優しい感じがするね。ということは、加助は兵十のことをどう思っているんだらうね。
- ・話は信じられないんだけど、兵十とは、仲良しじゃないかなあ。
- ・兵十のお母さんが死んだから、兵十に優しくしてる。だれだかしらんないが、くりやまつたけをおいていくうん、いろいろ考えられそつだね。
- いずれにしても、加助は、兵十の言ったこと全部が信じられないんだね。

102 「ほんとだと。うそと思うならあした見に来いよ。そのくりに見せてやるよ。」

(それは) ———— ほんとだと。



そのくりに (おまえ))

(おれは) ———— 見せてやるよ。

と

ええ結構です」「一口乗るか。乗る」と「普

信じてもらえないことを齒がゆく思つ兵十。自分はうそを言っていないのだから、自信満々で加助に断言する。うそじゃないと。

最初のことば、何が本当だといっているんだらう？

・おつかあが死んでからは、だれだかしらんが、おれに、くりやまつたけなんかを、毎日毎日、くれる、とううう。

・くりやまつたけなんか兵十のところにおいてあること。

そうだね。ところで、「ほんとだと」という言い方、どんな気持ちがあるんだらう。ほかの言い方と比較して考えてみよう。

比較 ほんとだ。

ほんとだよ。

ほんとだと。

・ほんとだとといったら、なんだか、ぜったいほんとはどういふ気持ち強いみたい。

・ぜったいうそじゃないとどういふ気持ち。

*子どもたちがわからなければ、「共」のもの意味を教えてやれば

い

では、次のことばを考えてみよう。最初に言っているのが？

・うそと思うなら、

そう言っている兵十は、加助をどう思っているから？

・加助は、兵十の言っていることをうそだと思ってる。

・「ほんとかい？」と言っているのでも、うそだと思ってい

るんじゃないかと思っている。

・そうなんだね。「～するなら」という言い方は、そのなかど

うかわからないけど、もしそうだとしたら、って

でも、もし加助がうそだと思っているなら、・・・？

・あした、見に来いよ。

・これは、どういふ気持ち？

・信じてほしい。

・信じてないのか

・本物を見せたい

・加助は、そこまでしようと思っていたのかな？

・見に行つて確かめてやるうそまでは思っていない。

・信じられないけど、そこまで信じていないわけじゃ

ないし。

通、返事の場合に使う。

*この言いは、現代の子どもたちの間ではなされなくなっている。こつした機会に、教えておきたいものだ。

参考 明日、来てくれるかな。ーいよもー

いすのむいす 条件のかたす

文法(仮定的な条件をあらわす)

成立するかどうかまだわからないのだが、成立するかもしれないし、成立しないかもしれない条件

原因理由をあらわすものはないが、原因理由

は、ほかのところにある。本文の場合は、次のせり

ふ)そのくりに見せてやる(か)が理由になり

うそを考えたこと。

いすのむいす 既出

この場合は、()と名詞+事件名詞+()の移動動作の目的()と考えればよい。

例 しばかりに行へ。

買い物に行へ。

勉強をしに行へ。

遊びに行へ。

よ 終助辞 既出

「の場合は働きかける文に使われる用法

相手がそれをする必要をまだ感じていないことを知らせる形

相手が話し手の命令に感じないことを示すために「やまじい」

聞き手が、しない、あるいはききたくないことをおまんばかして、話し手があらかじめ注意して「よ」と

の 意味だと受けとられる。

つまり、加助は、兵十の家に行き行って確かめようという気持ちでなっていると、兵十には感じられていないのだ。

よ 既出

よまじい形

妹と遊ぶための よのため

「の試合にかならず勝つてやる」 決意

よまじい形は、マナタのサーブ

「の場合は、だまをきえられる。が、の用法の場合は、よまじい形に置きかえることができない

加助は、見に行つて確かめるといふほどは、本気になつていないんだ。でも、兵十は？

・ 本当のことなんだから、ちゃんと信じてもらいたい。はつきりさせたい。

・ 一生懸命言っている。

だから・・・？

・ そのくりを見せてやるよ、と言っている。

・ そのくり、というの？

・ だれかが置いていったくり。

・ 兵十が言っていることの証拠のくり。

それを「見せてやる」と言っているんだ。」としてやる」といふのは、これまでも出てきたね。どついつ気持ちがあるのだったかな？

・ 相手のためにする。

そつだったね。では、この場合は？

・ 加助のために。

・ 加助がちゃんと信じないから、加助がはつきりわかるように見せてやるよまじいよ。

そついつことになりそつだね。でも、くりを見せるのは、加助のためだけなのかな？

・ 兵十が信じてもらうため。

・ うそじゃないとわかってもらうんだから、自分のた

めだと思つ。

そつだよね。そつするよ。」としてやる。「は、ほかの気持ちもあるみたいだ。たとえばね、こんな使い方もするんだ。

例 「の試合にかならず勝つてやる」

これは、どんな気持ちがあるように思つ？

・ 自分のために勝つ。

・ 自分のためつていうより、勝つぞつていう気持ち。

この使い方だね、だれのためとつより、自分の決意、積極的に「つする」という気持ちがあるんだ。

・ それくらい自信があるんだ。

・ そつ言つ気持ちを加助にわかってもらいたいんだ。

そつだね。そんな気持ちも「にはあるんだらつよね。ぶついつにまで言われたら、聞いている方はどつ思つ？

・ ほんとかもしれない。

・ つそをついているわけじゃないとつだと思つ。

みんなでも、本当のことを言っているのに、相手がわかつてくれないときには、こんな言い方をするよね。兵十もそんな気持ちでつ言っているんだらつよね。

このがらついでつよね。」「は、見せてあげるとつ言つてもなつかなつこの意味で、の意味を含んだものと考えてもいいのかも知れない。

へえ、

変なことも——あるもんだなあ。

変

【釋】「変」普通でない。「変な音」「変化(へんげ)・変事・変死」

な に 普通と違って、正常と思われな様子。用例 例 頭が だ な話

も

既出

この場合は、「極端な例をあげて」おもうとする「ことが」までおまじいことをしめす「おまじい」は「まじい」そ
うだ。

くするものだ

【文法】

一般化されたものことであらわす

兵十がそこまで言うなら、兵十がうそをついているわけではないと認めているが、そのできごと自体に対しては、「変なこと」だと思わざるをえない加助。同じできごとを、兵十が「不思議なこと」と言っているのは、気持ちのずれがある。

兵十にそこまで言われて？

・へえ、変なこともあるもんだなあ、と加助は言った。ということは、加助は兵十の言っていることを信じてないのかな？

・一応、信じたんだけど。

・兵十の言ったことは本当なんだろうけど、何だかよくわからないような気持ち。

ひとつ一つ、ていねいに読んでみるよ。

まず、変なことを言っている。変なことをこののは、どういふこと？

・ふつうじゃない。

・ふつうだったら、起きないこと。

そつだね。加助は、ふつうではない変なことだと言っているんだ。兵十は、どう言っていたかな？

・不思議なこと。

兵十にとっては、不思議なこと、加助にとっては、

変なことなんだね。

その変な「こと」も、あるもんだなあ、と言っている。あるもんだをちゃんと言っていることになる。

・あるものだ。

「くするものだ」という言い方には、だいたい次の「く」とおりの言い方がある。

例

秋になれば、涼しくなるものです。

よくもこんなにかすじやがでまるものね。

・は、いつものことで、決まっているような感じ。あたりまえのことを言っている。

・は、あきれている。

・びっくりしている。

・ふつうじゃないという気持ち。

・皮肉を言っているみたい。

そつだね。とではずいぶん違つ。は、当然そ

うだということであらわしている。は、言っている人の気持ちがあつて、あきれたり感心したりする

ときに使われるんだ。

では、この加助の言い方はどちらなんだらう？

りくしや習慣からいって、当然そのようになる。その中であ
る「く」をあらわす
使用の場では、相手、または自分についてきかせる
と「く」的的な性格をおびる「く」が多い。
感心、あきれをあらわす
個別的なことがらに對する、ふつうでなく「く」の評
価(べい)は「く」を感情的に述べ
「あるもんだ」「いるもんだ」はその存在を一般的
なものの「く」に「く」に「く」に「く」に「く」に「く」に「く」の特
殊性を強調する。
「く」は、最後の用法そのものだ。ふつうで
は「く」に「く」であらわしている。

な

終助辞

【文法】

聞き手の認識によつて話し手が自分の認識を確
かなものにするときに使われる。また、聞き手のい
なるときには、ひびいて、内言として「く」を
それとともなう感動をあらわす場合にも使われ、
それとかがわつて、相手の前でも詠嘆の意がこめら
れる「く」がある。

聞き手「く」の場合、加助は兵十の言ひで

めた上で、変なことがあるといつ詠嘆の意があるのだらう。

- ・ のほろ。
- ・ びっくりしている。
- ・ ふつうじゃないと思っている。
- ・ やっぱり、変なことだというのを強く思っているんだね。

といつことは、加助は兵十の言ったことをどう思ったかといつこと？

- ・ 兵十の言うことは本当だろうけど、それはとても変なことだと思っている。
- ・ 兵十のことは信じてるけど、そのなかみは信じられないようなことだと思っている。
- ・ 兵十の言っていることが本当なら、それは、変なことだ、ふつうではないことだと思っている。

そつだね。加助は、兵十の言うことを信じたんだけど、だれかわからない人がくりとかまつたけを置いていくというのはふつうではありえないことだ、変なことだと思っただね。

では、ここまでの会話をもう一度読んでください。

104 それなり、二人は、だまって歩いていききました。

それなり、
だまって

二人は——歩いていきました。

それなり

「辭書？ 別な？ 辞書？ 別な？ 辞書？ 別な？」
「別な？ 辞書？ 別な？」
「別な？ 辞書？ 別な？」
「別な？ 辞書？ 別な？」

〜ついでに 既出 道のきき態

この場合は

ある動作や状態をしながらいく

むいへの遠のく移動やはたらきかけ

の、両方が加味されたものか？ただ、こんも後ろから一緒につけているわけだから、ただだと思えるわけでもない。

- 話が話だけに、二人とも次に話すことばが見つからない。お互いにだまってしまい、静かな時間になった。ごんは、それでも、話のつづきが気になって、聞き耳を立てながらつけていく。そのごんには、また、まつむしの鳴き声が聞こえてきていることだろう。
- ・ まずわかることは？
 - ・ 二人は 歩いていきました。
 - ・ そのようすは、だまって、です。
 - ・ それなりの意味は？辞書を引いてください。
 - ・ そつしたまま
 - ・ それきり
 - ・ それなりのそれは？
 - ・ 「へえ、変なこともあるもんだなあ。」と言ったまま。だまってからわかることは？
 - ・ 考えこんだ
 - ・ 話がとぎれた
 - ・ 兵十も加助も話すことがなくなった。
 - ・ 二人とも、どう話していいかわからなくなった。
 - ・ ごんは、どうしたんだらう？
- 話のつづきが聞きたいから、まだついていつている。次に何を話すかなあと、一生懸命聞いていつている。

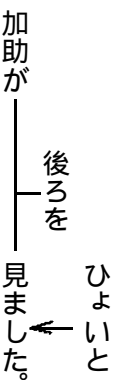
でも、一人とも何もしゃべらないで、だまって歩いているんだ。そうすると、ごんの耳には……？

- ・何も聞こえない。
- ・まつむしの声だけ聞こえる。

そつだね。しんとした中で、まつむしの鳴き声が聞こえている。そんな中、兵十と加助はだまつたま夫並んで歩いているし、その後ろからは、ごんがこっそり聞き耳を立てながらついていっているんだ。どう、頭の中に絵がうかんでくる？

105

加助が、ひよいと後ろを見ました。



ひよと

【辞】 思いがけず、突然なさま。」「行き会つ。」「

何の気なしに、突然にするさま。」「後ろを見る

手軽・身軽にするさま。」「持ち上げる。」「

飛びのく

文104と文105は、段落がかわっている。つまり、ここには時間的な経過があるということだ。二人は相変わらずだまつたま歩き、ごんはこっそりつけている状態が続いていたのだ。

そんな時、加助が何気なしに後ろを見た。ごんにすれば、突然で、ずいぶん驚いただろう。これは、次の文ではつきりする。

さて、次の文だけど、ちょっと気をつけてみて。前の文とこの文、何か気がつかない？

……？

・段落がかわっている。

そつだね。ということとは、何かわかることはない？

・二人がだまつてから、ここまで時間がたっている。書いてないけど、そう読めるね。じゃあ、この間の時間の二人やごんのようすなどはどうだったんだろう。

・二人はずっとだまつたま歩いていた。

・まつむしの鳴き声だけがしていて、静かだった。

・ごんはずっとつけていていた。

・ごんは、つづきを話さないかなあとと思って、じっと聞きながら歩いていた。

そうなんだね。そういう状態が続いていたときのことだ。では、この文で、まずわかることは？

- ・加助が見ました。
- ・見たところは、後ろです。
- ・見方は、ひよいとです。
- ・加助は後ろを見たんだ。その後ろには・・・？

・ごんがいる。

そうだよ。しかも加助の見方が、ひよいとなんだ。ひよいに見えるというのは、どどういう見方？

- ・急に見た。
- ・突然見た。

ほかにもある。辞書で調べてもらえ。

- ・何の気なしに見た。

・思いがけず見た。

思いがけず見たというのもあるんだ。思いがけず、というのは加助にとってなのかな。

- ・ごんにとっては、思いがけずだ。

そうだね、何気なしに見たというのは、加助にとつてのことだ。でも、ごんにとっては、

- ・思いがけず、突然だった。

ごんの気持ちもわかりそうだね。

- ・二人が後ろを見るなんて思ってもいなかった。

- ・あんまり急だったから、驚いた。
- ・びっくりした。

そうだ。そのことが、次に書いてあるんだ。

突然の加助の動きに、ごんはびくっとした。そして、見つかってはいけないと、とっさに背をかめて小さくなって立ち止まったごんだ。

まず、わかることは？

- ・ごんは、びくっとした。
- ・ごんは、小さくなった。
- ・ごんは、立ち止まった。

ごんのごんが三つ書いてあるよだね。

まず、ごんはびくっとした。びくっとするといったら、びくびくすること。みんなにも、びくっとすることってあるよね。

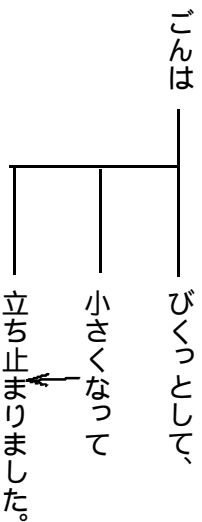
- ・びっくりしたとき。

・びっくりすることが急にあったとき。

・そんなことあるとは思わなかったことが、急にあったとき、びくっとする。

そうだね。びっくりするんだけど、そのなかみはぶ

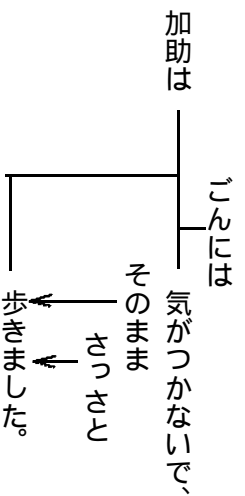
106
ごんは、びくっとして、小さくなつて立ち止まりました。



中止形

既出

加助は、いんには気がつかないで、
そのまま、さっさと歩きました。



じつじつびっくりするのとちょっと違った。
それに、びくっというびくっしかたのときは、伽
あ、とかとびくっというびくっするのと同じかな。

・びくっというときは、声が出ない。
・体が固まる感じ。

びくっのしかたも違うんだね。つまり、ごんの場合
は……？

・加助が後ろを向くなんて思っていなかったから、も
のすごくびくっした。

・心臓が止まるかと思った。

そっだよ。それまでのごんは、どうだったかとい
うと……？

・二人が何を話すのかなあと、話のことはかり気にし
てきた。

・二人はずっと歩き続けると思って、二人の動きはあ
まり気にしてなかった。

そんな時に、後ろを見たんだ。そりゃあ、びくっ
するよね。そして、小さくなって立ち止まった。小
さくなるっていつじつじつなるの……？

・背をかがめている。

・地面にふせるようにした。

・見つからないように、小さくなった。

そんなようすで立ち止まったんだ。ふつう、立ち止
まるっていったら、立ったまんまなんだけど、この
場合は……？

・姿勢を低くしてふせて、止まっている。

・見つかったらちやばいと思った。

どきどきだね。何しろ、ごんは、二人のすぐ後をつ
けているんだものねえ。

さあ、ちゃんと頭に絵がつかんできたかな。

ただ、振り向いただけの加助。何かしら気配を感じ
ていたのかもしれないが、それほど気にするようす
もなく、さっさと歩き出した。その一方で、ごんは、
ずいぶんほっとしたとたどらう。

わかることは？ 一つあるよ

・加助は、気がつかないで、

・加助は、歩きました。

はじめのほうから読んでいっつ。

・気がつかなかったのは、ごんにです。

ごんには気がつかないっていうんだから、わかるこ
とはず……？

・何かは見たかもしれない

「この場合は、同類のものだから、そのものをぬきだす」といっているのだが、「」を「」がつかないで、ほかのものには「気がついたのか」といって「」は「」。

とりたては、直接くっついてる単語を取りたてる場合もあれば、それに続く単語もふくめて取りたてる場合がある。

大工は お茶ばかり 飲んで いた。

「お茶」だけをとりたてる場合

「お茶を飲んでた」をとりたてる場合

本文の場合、「」に「」がつかない「」をとりたてるととらえる方が自然だろう。が子どもにとらえさせるのはむずかしいと思われ。

「既出」

「既出」迷ったり手間取ったりしないで、すばやく動作をする様子。「」片付ける

でも、「」には気がつかなかった。

まあ、そういうことだね。で、「」からすると、

「やれやれ、ほっとした。」

「見つかるっと思っただけど、見つからなくてよかった。」

そして、加助は、歩きました。そのようすは、

「そのまま歩きました。」

「さっさと歩きました。」

「そのままというの？」

「」には気がつかないまま。

「だまっただま。」

「前と同じまま。」

「そっだね。それまでと変わりなく歩いたんだ。」

「そしてもう「」、「」、「」、「」の「」は、

「速く。」

「それまでよりも速く歩いたのかな。歩くスピードを

上げたんだらうか。」

「たえば、「」、「」さっさと片づけなさい」と言われたと

きには、「スピード速く片づけなさい」ということなの？」

「」。

「くすぐくすぐするなっていうことだと思っ。」

「ほかのことはしないで、片づけなさい」ということ。」

「と「」は、「」では？」

・立ち止まったりしないので、すぐ歩いた。

・きよろきよろしないで歩いた。

・それに、おしゃべりもしてない。

・ただ、歩くだけだったんだ。

「そっだね。兵十と加助は、ほかのとはしないで、と

にかく歩いたんだ。そうすると、スピードも自然に

速くなるかもしれないね。」

「」からするとどうだったんだらう。」

「今さっき見つかりそうになったから、慎重になって

いると思っ。そしたら、もつと背をかがめてこっそ

りつけていくから、「」のスピードは遅くなるんじ

やないかな。そしたら、兵十たちは速く歩いている

ように感じてると思っ。」

「」はじっとしてるから、加助がそのままほかのこ

とをしないで歩き出したら、ちよっと、遠ざかった

と思っ。」

「加助がどうして後ろを向いたかはわからないけど、

ちよっと後ろを向いただけで、特に何もしないで、

また歩き出したんだね。」

「」は、「びくっ」と驚いたぶん、「ほっとしたんだ。」

「頭の中に、絵がうかんできたかな？「」の気持ちも

つたわってききましたか？」